

きものでトレイン



@ななつ星



@四季島



@ザ・ロイヤルエクスプレス



@瑞風



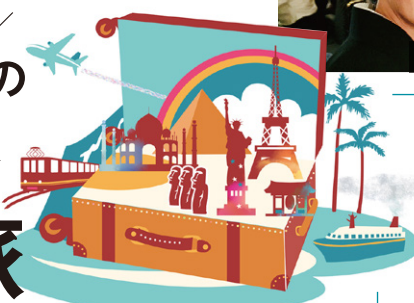
@オリエントエクスプレス



@イースタン&オリエンタル・エクスプレス

＼平成・令和の兼高かおる!?!／

和装家・吉田貞子の きもので 世界の旅



@クイーン・エリザベス



@日本丸



@はしふいっく びいなす



@ニュージーランド (フィヨルド)



@飛鳥II



@ドナウ川



@アドリア海



@アドリア海



@北欧 (フィヨルド)

きもので世界遺産ほか



@ブダペスト国会議事堂



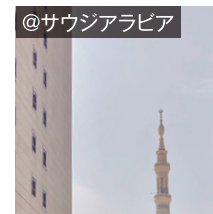
@サウジアラビア



@ブダペスト鎖橋



@カナダケベックの旧市街



@サウジアラビア



@スペインのコンポステーラ (旧市街)



@南米 (ウユニ塩湖、ナスカの地上絵へ)



@南米 (ウユニ塩湖、ナスカの地上絵へ)

兼高かおるさんが初めて海外取材に出発した時は きもの姿で!

テレビ番組「兼高かおる世界の旅」
(1959-1990)では
取材国は約150か国にのぼった。
(写真は公式Instagramより)



和装家に 聞く

今日の和装家は吉田貞子さん

(聞き手／四季誌和装家編集 佐藤正樹)

きものが彩る好奇心があふれた 「アクティブな人生」

アクティブ&ポジティブな方が多い和装家の方々の中でも、とびきりなのは、今回取材させていだいた吉田貞子さん。左のページにて世界中で披露されたきものを紹介していますが、それはまさに平成・令和の兼高かおる(えい)誰?という方は検索してみてくださいね)で、さらに詳しいのは、そのシートのほとんどが「きもの姿」ということなんです。

吉田さんらしさがもともと表現されているのが「旅行」です。主人が旅行好きということも手伝って、その旅行先は世界の隅々まで。旅行好きの私も、あつさり脱帽です。そのエネルギーの源を探ることが、今回のインタビューの大きな目的になりました。

吉田さん「好奇心でしょうね。行ってみたい、見てみたい、体験したいという気持ちが原動力だと思います」

なんと「フルマラソンにも挑戦している」とのこと。ほとほと「きもの必須」にされているようですが、大変ではないでしょうか?

吉田さん「移動している時、滞在している時間そのものが、旅行として楽しい時間になるというクルーズはとて好きです。楽です。それと、きもの姿だとモテるんです。普通に洋装だと、ただの

東洋人ですが、和装すると、日本人女性としてのアイデンティティーを見事に表現できます。モチモチで快感!」

インタビュー後、写真撮影のために横浜巡りにお付き合いました。その際、子育てで少しだけ、つまづかれたことなどをうかがいながら、「吉田さんの行動力は、単に好奇心という言葉だけでは説明できない」と思いました。その答えとして、まず行動してみ、あとはなんとかなるという楽観主義が基本にあつて、さらに、きもの姿という彩りが、動機づけになっているのではありませんか。吉田さん、この分析、間違っていないでしょうか?

さあ、みなさんもきものを持って(着て)、世界に旅立ちましょう!



花織のきものに玉那覇有公先生の紅型帯で横浜めぐり

左ページで吉田さんのきもの旅行写真を紹介しました。(これでもごく一部です)



横浜「港の見える丘公園」にて向こうに見えるのは大仏次郎記念館

日本和装ホールディングス株式会社の2022年きものプリアンツ「石川部門」グランプリ受賞

